

本誌第11号は原著として、スポーツ、特に球技系のスポーツに重要な視覚機能に対する鍼刺激の効果が掲載されています。我が国の競技人口（過去1年間でそのスポーツを行った人数）が野球では約800万人、サッカーが約600万人、バドミントン、テニスとともに約500万人（平成23年総務省調べ）と、球技系のスポーツ活動を行う人が多い中、その選手をサポートする側の人たちの役割は今後ますます重要になってくると思われます。本学としましては、5年前よりスポーツトレーナーやそれらの関連資格が取得可能なカリキュラムで教育を行っており、スポーツ選手を支える側である鍼灸師、柔道整復師を育てることに力を注いでいます。また本学では、トップアスリート及びスポーツ医療に貢献できる人材の育成を目的としたスポーツ振興プロジェクトが来年度から始まります。このように本学としましてはスポーツとの関わりが深くなりつつありますので、研究面でもスポーツ・運動領域の研究も深くなることを期待しております。

本号ではその他として、統合失調症患者の化粧の影響に関する研究が掲載されています。学内では、看護系の研究としてこれまでも森林浴、タッチケア、足浴、アロマ芳香浴など治療以外にも行われるような活動を看護の中に取り入れた研究が多く行われてきました。質の高い看護の可能性を高めるという意味でも、多方面から見た看護に関する研究を期待しておりますとともに、多くの看護系の研究結果をぜひとも本誌にご投稿いただくこともお願いいたします。

また、本号では本学ユニット・講座ごとの研究業績も掲載しています。本学での研究は実に幅広い領域にまたがっていることが良く分かります。そういう意味では、単なる業績集として捉えるだけでなく、一緒に共同研究ができそうな先生を探すという目でご覧いただくのも良いかと思えます。

最後になりましたが、本号を発行するにあたり、投稿、査読、編集に携われた多くの方々に御礼申し上げます。

明治国際医療大学誌編集委員会  
副委員長 林 知也